

文部科学省地域ニーズに応える産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム構築支援事業

新潟県 県の主要産業を支える“コーディネーター伴走型
農業リカレント教育プラットフォーム”の構築プロジェクト



TSUNAGU
Niigata

農業人材に関する一次調査 調査結果

2024年2月

一次調査結果

1. 農業人材に関するニーズ調査…3p
2. 一般提供されているリカレントコンテンツ調査結果 …15p
3. 学内教育コンテンツ調査 …18p

“新潟から新しい農業の学びの可能性を広げていく”

新潟県農業リカレント教育プラットフォームでは、主要産業を支える農業者に最適な学習環境を提供することで、付加価値の高い持続可能な地域産業の実現を目指しています。地域ニーズに応える人材を継続的に輩出することを目的とした、「コーディネーター伴走型リカレント教育プラットフォーム」の構築を目指し、産学官金が持つ知識を組み合わせたリカレント教育を企画しています。

令和4年度地域ニーズに応える産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム構築支援事業では、リカレント教育に関する人材ニーズの把握として農業人材に関する一次調査の実施と大学等の教育コンテンツの調査を行い、地域ニーズとのマッチングに向けモデルリカレント講座の開催を行いました。

農業者の皆さまには調査のご協力をいただき誠にありがとうございました。
農業人材に関する一次調査結果をご案内いたします。

1. 農業人材に関するニーズ調査



(1) 定量調査（アンケート）結果

<調査概要>

- 調査目的：県内農業従事者が抱える課題と農業従事者が求める人材像およびその人材像を形成するためのリカレント講座へのニーズ調査を行う。
- 調査方法：Webアンケート
- 調査期間：2023年8月21日(月)～2024年1月4日(木)
- サンプル数：79件 ※ご協力いただきありがとうございました。

<調査結果サマリ>

① 県内農業従事者が抱える課題

■ 農業者のありたい姿として、

「農業・農地を守りたい」「継続したい」といった声が多数

ありたい姿や目指していることの回答として「農業・農地を守りたい」に関わる回答が13件、「継続したい」に関わる回答が6件となった。また何年後を見据えた回答かの問いに対して、「4～5年後」30.4%、「10年以上先」26.6%の回答となった。

■ 最も栽培・販売を強化したい農作物は「枝豆」と「いちご」

水稻以外の農作物でこれから最も栽培・販売を強化したい農作物の回答として、「枝豆」の回答が9件、「いちご（越後姫含む）」の回答が7件と上位の回答となった。次いで、「タマネギ」「ぶどう」がそれぞれ5件の回答となった。

<調査結果サマリ>

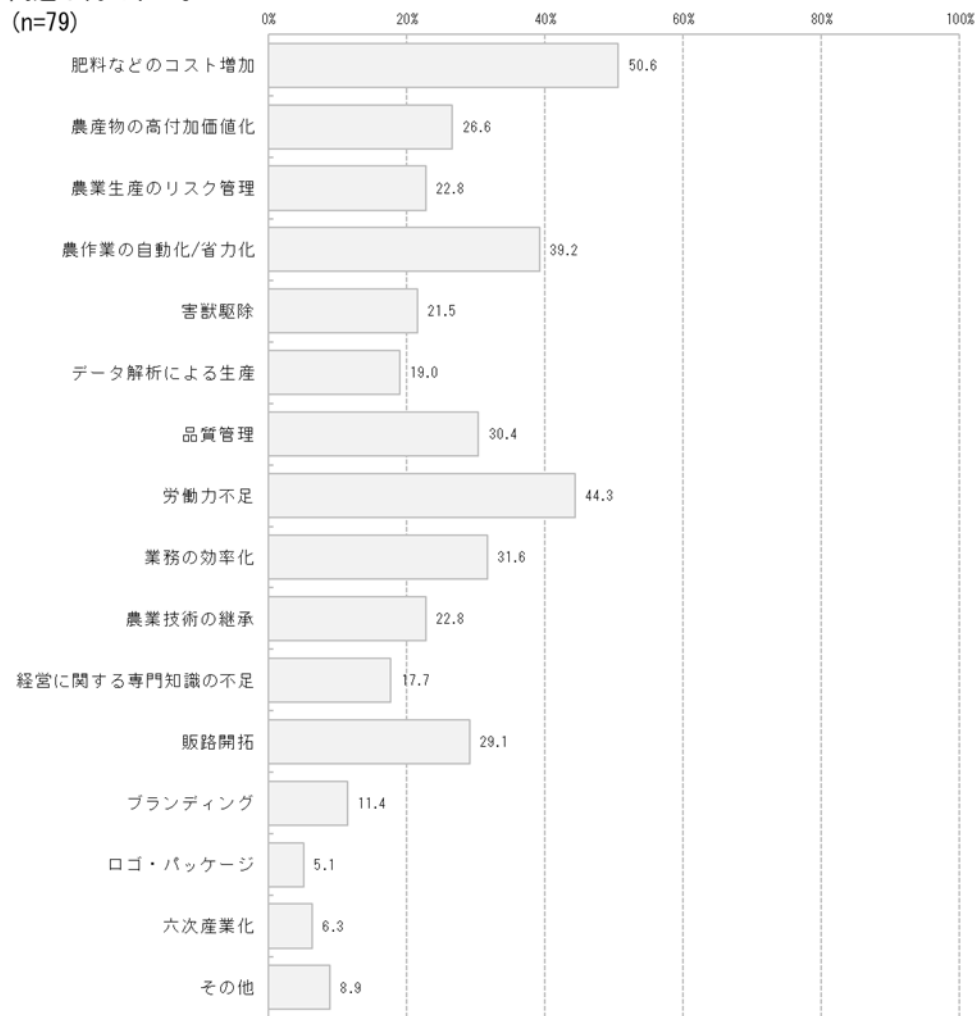
① 県内農業従事者が抱える課題

- 現在直面している課題は
「肥料などのコスト増加」
「労働力不足」
「農作業の自動化/省力化」

栽培・販売強化したい農作物における現在直面している問題の回答として、「肥料などのコスト増加」50.6%「労働力不足」44.3%「農作業の自動化/省力化」39.2%が上位の回答となった。次いで、「業務の効率化」31.6%「品質管理」30.4%「販路開拓」29.1%の結果となった。

Q15. 上記の栽培・販売強化したい農作物において、現在直面している問題は何か。

(n=79)

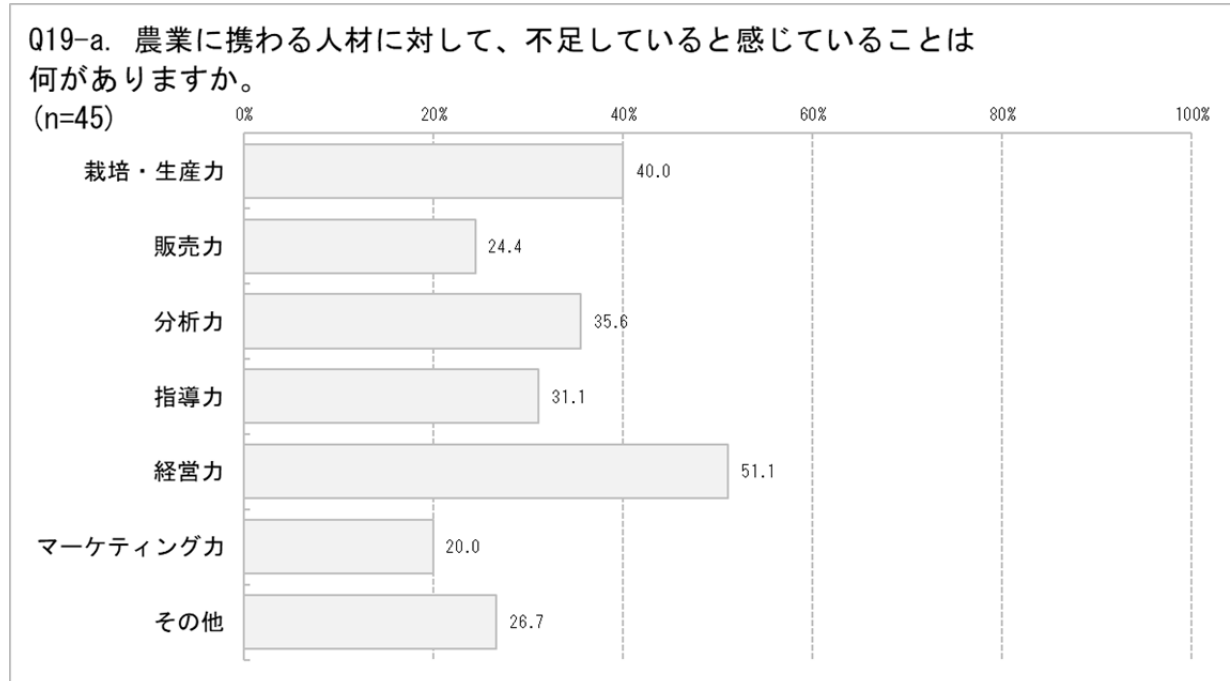


<調査結果サマリ>

②農業従事者が求める人材像

■農業に携わる人材に不足していることは「経営力」「栽培・生産力」「分析力」「指導力」

農業に携わる人材に不足していることの回答として、「経営力」51.1%、「栽培・生産力」40.0%、「分析力」35.6%、「指導力」31.1%が上位の回答となった。



<調査結果サマリ>

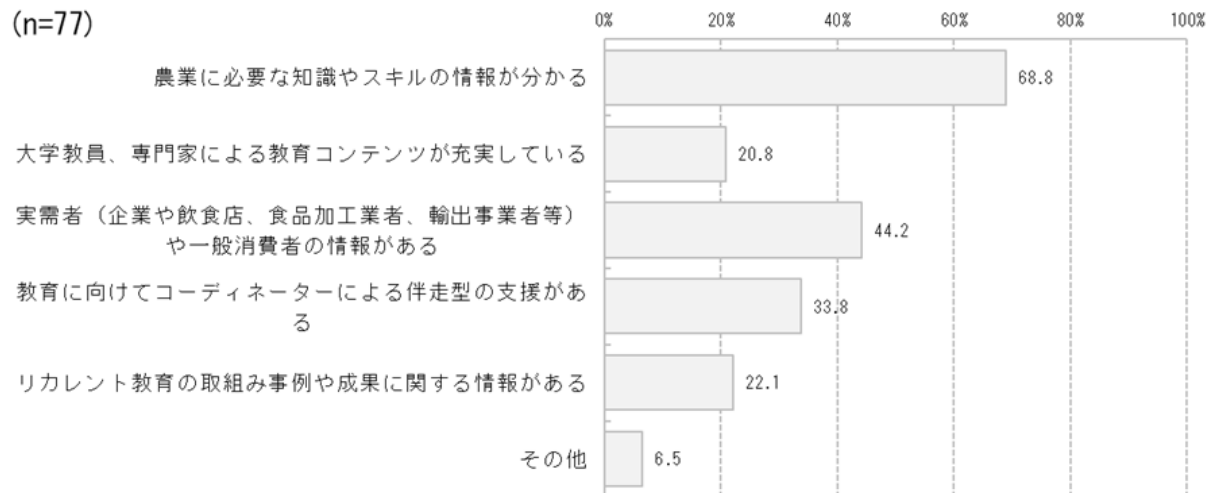
③リカレント講座へのニーズ

- 一緒に取組みたい教育プラットフォームは「農業に必要な知識やスキルの情報が分かる」「実需者（企業や飲食店、食品加工業者、輸出事業者等）や一般消費者の情報がある」「教育に向けてコーディネーターによる伴走型の支援がある」が上位の回答

どのような教育プラットフォームであれば一緒に取組みたいと思うかの回答として「農業に必要な知識やスキルの情報が分かる」68.8%、「実需者（企業や飲食店、食品加工業者、輸出事業者等）や一般消費者の情報がある」44.2%、「教育に向けてコーディネーターによる伴走型の支援がある」30.8%が上位の回答となった。

Q21. どのような教育プラットフォームであれば一緒に取組みたいと思いますか。

(n=77)



<調査結果サマリ>

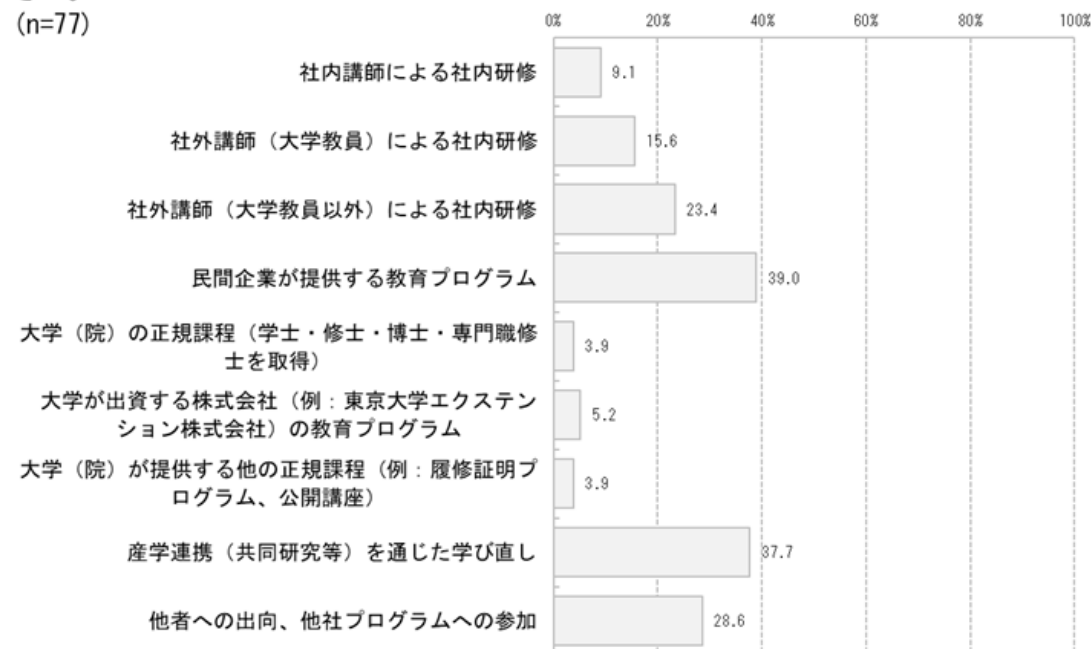
③リカレント講座へのニーズ

■ 関心のあるリカレント教育の形式は

「民間企業が提供する教育プログラム」「産学連携（共同研究等）を通じた学び直し」「他者への出向、他社プログラムへの参加」が上位の回答

農業分野において関心のあるリカレント教育の形式の回答として、「民間企業が提供する教育プログラム」39.0%、「産学連携（共同研究等）を通じた学び直し」37.7%、「他者への出向、他社プログラムへの参加」28.6%が上位の回答となった。

Q27. 農業分野において関心のあるリカレント教育の形式をお教えてください。
(n=77)

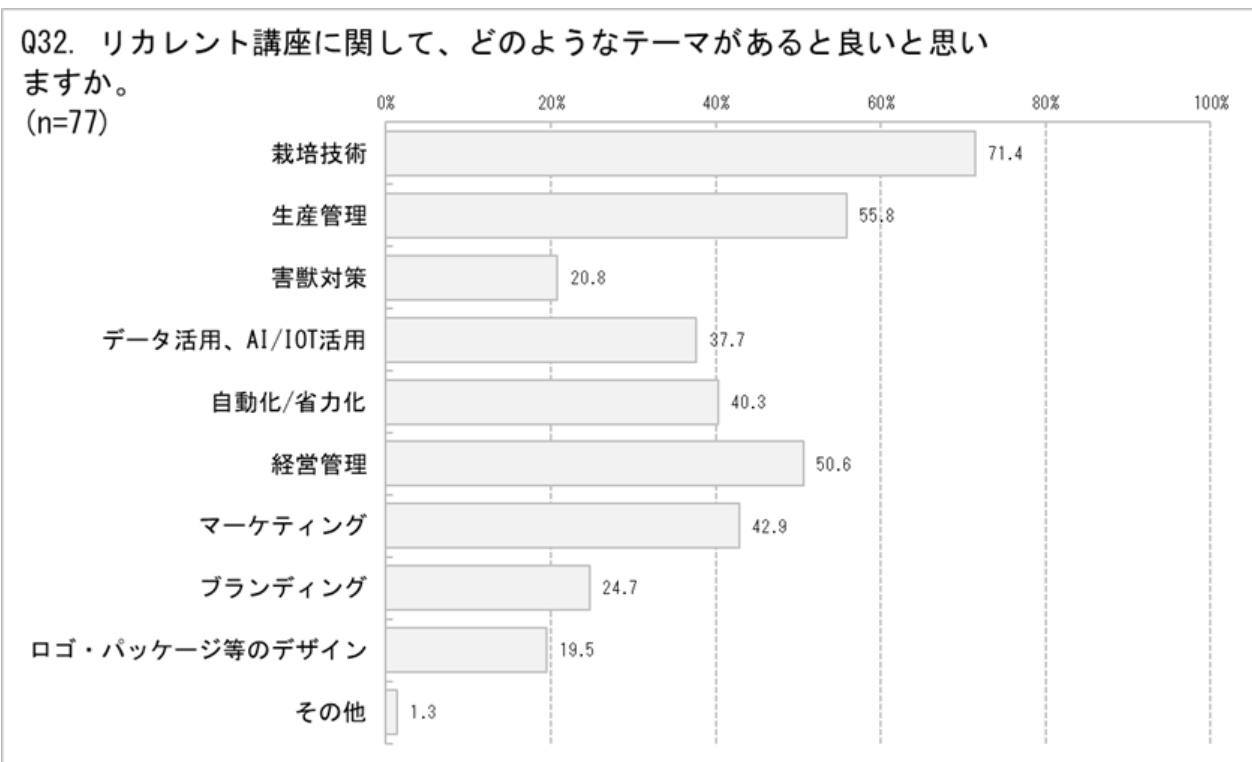


<調査結果サマリ>

③リカレント講座へのニーズ

■リカレント講座で求めるテーマは「栽培技術」「生産管理」「経営管理」

リカレント講座に関して、どのようなテーマがあると良いと思うかの回答として、「栽培技術」71.4%、「生産管理」55.8%、「経営管理」50.6%と半数を超える回答となった。次いで、「マーケティング」42.9%、「自動化/省力化」40.3%、「データ活用、AI/IOT活用」37.7%の結果となった。



<調査結果サマリ>

③リカレント講座へのニーズ

■リカレント講座の仕組み、受講方法は

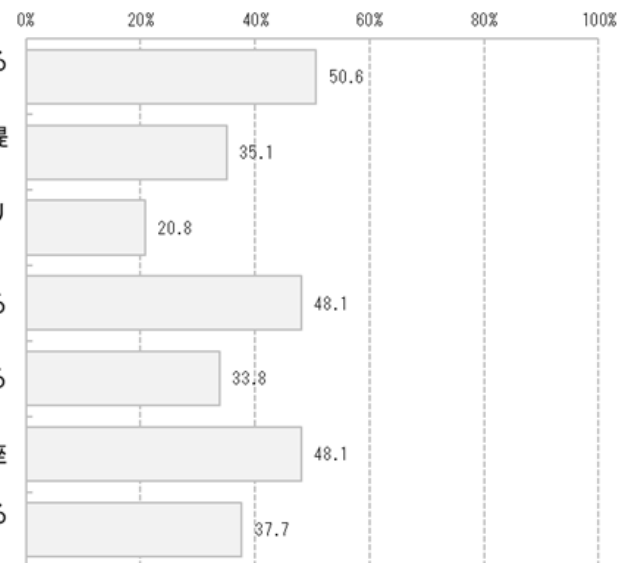
「ホームページ上のプラットフォームにより受講できる講座がわかる」が半数以上

リカレント講座に関して、どのような仕組み、受講方法があると良いと思うかの回答として、「ホームページ上のプラットフォームにより受講できる講座がわかる」50.6%、「オンラインにより受講ができる」「座学だけでなく、ワークショップのある講座」がともに48.1%と約半数の回答となった。次いで「座学だけでなく、参加者交流（参加者、講師）のある講座」37.7%、「コーディネーターが課題に応じたリカレント教育を提案してくれる」35.1%が上位の回答となった。

Q33. リカレント講座に関して、どのような仕組み、受講方法があると良いと思いますか。

(n=77)

ホームページ上のプラットフォームにより受講できる講座がわかる



(2) 定性調査（ヒアリング）結果

<調査概要>

- 調査目的：県内農業従事者が抱える課題と農業従事者が求める人材像およびその人材像を形成するためのリカレント講座へのニーズ調査を行う。
- 調査方法：オンラインデプスインタビュー
- 調査期間：2023年11月7日(火)～2024年1月10日(水)
- サンプル数：17件 ※ご協力いただきありがとうございました。

<調査結果サマリ>

① 県内農業従事者が抱える課題

■ インタビュー結果一部抜粋

- ✓ 経済変化、原材料の高騰に対応して、今後やっていけるか不安
- ✓ 1人ですべてやるとできる量に限界がくる。誰にも教わらず、新規の状態ですべての売り先や栽培方法を身に付けるのが大変。
- ✓ 師匠みたいな人が周りにはいないかがかなり大きい。
- ✓ 担い手不足が一番の課題。

調査結果から「経済社会の変化への対応」「人手不足（育成）への対応」「師匠（協力者）の存在」が求められている。1人で（小規模、家族経営）で行うことには限界が訪れてきている。また、一般的な取引先や顧客に対する対人関係のスキルも求められている。経営規模拡大に伴い雇用、指導に関する課題や協力者の獲得、生産以外の知識・スキルが必要となっている。

<調査結果サマリ>

② 農業従事者が求める人材像

■ インタビュー結果一部抜粋

- ✓ 自分で現場を見て回って気付いて動ける = 自分で考えられる力。
- ✓ この人が作っているから買いたいといった選ばれる人を育てていきたい。基礎が分からなければ実践に移せない。
- ✓ 同じ仕事が続くことも多く、（人材の定着のために）新しいチャレンジをさせるのか、違うことをさせるのかを考える必要がある。
- ✓ 自分で考えられる人、自分の作業を説明できる状態だと、次の事も見えてくる。

農業は天候に左右され、労働の季節性（繁閑差）があるため、自ら考えて行動する人材が求められる。知識だけでない現場力やこの人の農産物を購入したいと思われる人間力も求められる。一方で、一般企業並みの給与水準が難しく、人材の定着のためにも、学び直し、挑戦、成長といった目に見えない報酬も求められている。

<調査結果サマリ>

③ リカレント講座へのニーズ

■ インタビュー結果一部抜粋

- ✓ 最近環境の話に興味津々。従業員が学ぶことは農業界の枠を出ていない。大学と連携することで、経営者が学ぶ場になると思う。
- ✓ （過去に外部のリカレント教育を受けて）現場を見ながら学ぶことですごく効率が良かった。リカレント教育はすごく良い。
- ✓ 優良企業の取組み事例や外に出て学ぶことは全然違う。自分たちのところが正解じゃないよということを知ってもらいたい。
- ✓ 公開講座と質疑応答が一番頭に入る事がある。講座後の情報交換会はすごく必要。

外に出て学び直すことに価値を感じている。その中で、現場での実習や優良事例といったコンテンツが求められている。また、生産面以外にも環境面や労務管理といった知識も求められている。受講形式は、オンデマンドと会場での交流、意見交換の両輪が求められている。

<調査結果サマリ>

<追加ヒアリングの内容>

上記の他に、プラットフォームより「農業者ヒアリングにより確認したい内容」として、生産面、販売面、体制面等に関して調査を行った。

■主なヒアリング内容

生産面：営農アプリの活用状況

販売面：ブランディングの必要性／販路開拓の意欲、方法／デザイン等の外注状況／

販売先と栽培記録提出義務／顧客ニーズの把握方法／ブランド化などの独自の取組み

体制面：コミュニケーション能力、機会

その他：他分野の関心興味／どのような方法で、学びの機会の情報を得ているか

生産面では、Excel等による独自管理を行っているケースが見受けられた。販売面に関して、系統出荷と直接販売により効率化、ブランディング等のニーズは異なる。現状の交流は農業関係者が多いが、商工会や他業種との交流を図っているケースも見受けられた。

＜今後の方向性＞

上記調査結果からも今後の方向性として、下記3点が求められていると考えられる。

- 1. 若手農家（次世代の人材）が
基本を学び直す仕組みづくり**
- 2. 時代の変化に合わせた新たな知識の取得、学び直し**
- 3. 農業リカレント教育プラットフォームが
“農業者”と“教育コンテンツ”をつなぐ必要性**

<一般提供されているリカレント関連コンテンツ調査結果サマリ>

(1) 調査結果

調査コンテンツ数：124件（うちオンデマンド4件）

<調査結果集計>

	合計	コンテンツの分類				受講方法		
		生産面	体制面	販売面	その他	対面	オンライン	ハイブリッド
新潟県内	32	10	11	10	1	22	3	7
新潟県外	88	49	23	5	11	42	31	15
オンデマンド	4	0	2	1	1	0	4	0

県内、県外問わず教育に向けた生産、体制、販売に関わるコンテンツが提供されている。また、受講方法として、対面以外にもオンライン、ハイブリッド（対面とオンライン両方可能）も開催されており、受講しやすい環境となっていることが推測される。

<一般提供されているリカレント関連コンテンツ調査結果サマリ>

(2) 新潟県のリカレント関連コンテンツ（一部抜粋）

①経営者のための経営改善実践セミナー（2023年10月～2024年2月に開催）

内 容 : 農業経営の課題解決にデジタル技術を活用し、事務や会計管理等のバックオフィス業務を効率化、また、現状の経営を見直し、経営改善計画の策定をサポート

事業実施主体 : 新潟県農業大学校研修センター

受講方法等 : オンライン受講 全8回のプログラム

参考リンク : <https://www.pref.niigata.lg.jp/site/nogyodai/jissensemina.html>

②新潟県農業大学校研修センター

内 容 : (1)農業の担い手の育成、(2)経営のステップアップ、(3)農業機械の操作等習得と農作業事故防止、(4)農業体験の4つに区分し「就農実践技術コース」、「就農実践経営コース」「農業担い手農耕用免許取得研修」をはじめ、様々な研修を用意

事業実施主体 : 新潟県農業大学校研修センター

受講方法等 : 研修内容により異なる

参考リンク : <https://www.pref.niigata.lg.jp/site/nogyodai/1343599229862.html>

③新潟県農業経営・就農支援センター セミナー及び個別相談会

内 容 : 農業経営の法人化、円滑な経営継承、経営規模の拡大など、農業者の皆様が抱える経営上の課題を解決していただくため、「経営セミナー及び相談会」を開催

事業実施主体 : 新潟県農業経営・就農支援センター（農業経営相談担当）

受講方法等 : 対面、オンライン参加併用 地域別個別相談会も開催

参考リンク : <https://www.niigata-nsoudan.jp/>

<一般提供されているリカレント関連コンテンツ調査結果サマリ>

(3) 参考（視聴可能コンテンツ）

<スマート農業教育オンラインコンテンツの公開について（農林水産省）>

農林水産省では、農業大学校等の農業教育機関でスマート農業のカリキュラム化を推進するため、オンラインで受講できるスマート農業教育コンテンツを作成しています。全国の農業大学校や農業高校等における授業や自習での活用だけでなく、スマート農業に興味のある農業者等、どなたでも閲覧可能です。

(ア)スマート農業について、基本的な技術・用語から実践まで体系的に学習

（R4年度スマート農業教育推進委託事業（委託先：北海道大学））

「スマート農業オンライン講座」

■第1章 基礎編 初めに YouTubeにて公開：<https://www.youtube.com/watch?v=QCnTBdf7ucU>

(イ)スマート農業の必要性と意義、データ活用の意義、先進事例などの紹介

「スマートに学んで活かそうスマート農業オンライン」

■第1章：スマート農業の必要性と意義

YouTubeにて公開：<https://www.youtube.com/playlist?list=PLMvvhD9xvwfmmJVvCapID8Phc7Z8XoHyH>

(ウ)施設園芸におけるデータの種類や取得方法、活用方法等をドラマ仕立てで分かりやすく解説

「スマート農業e-learning」

■第1回：はじめよう、スマート農業 YouTubeにて公開：https://www.youtube.com/watch?v=UiS_ZGBescg

事業実施主体：農林水産省 経営局就農・女性課 出典：農林水産省Webサイト

https://www.maff.go.jp/j/keiei/nougyou_jinzaiikusei_kakuho/smart_kyoiku.html

（上記より抜粋）

<調査概要>

農業人材に関するニーズ調査（定量調査）の結果を参考に、農業人材のあるべき姿の設定、課題の整理を実施。課題の解決に資する提供可能なコンテンツの調査を行った。また、提供コンテンツに対して、到達レベルの設定を行った。

<到達レベルの考え方>

1. 知識・記憶レベル：思い出すことができる（認識する、関連のある知識を思い起こす）。
2. 理解レベル：重要な概念や方法の意味を理解し、必要に応じて活用できる（解釈する、例証する、要約する、推測する、比較する）
3. 適用レベル：応用的な事例や問題の解決に知識・理論・情報を利用できる（遂行する、実践する）。
4. 分析レベル：複雑な課題に対して、要素がどう関連しあっているか識別、焦点化、組織化（統合・要点の整理・構造化）できる。原因を考えられる。
5. 評価レベル：基準や規範に基づいて判断できる（調整する、発見する、観察する、検証する、批評・判断する）。
6. 創造レベル：全体を組織化するために要素を新たに組み立てる。要素を新たに再組織化できる（生み出す、計画・設計する、作り出す）。

<調査結果>

	1.知識・記憶	2.理解	3.適用	4.分析	5.評価	6.創造	総計
1.生産面	8	5	7	2	0	0	22
2.販売面	7	10	2	0	0	0	19
3.体制面	1	16	2	2	2	1	24
4.その他	17	8	7	2	2	1	37
総計	33	39	18	6	4	2	102

生産面から販売、体制面まで課題に応じた教育コンテンツの提供が可能である。また、各機関で不足するコンテンツとして生産技術やECの立ち上げ等が挙げられたが、本調査からもプラットフォーム内の連携で補うことが可能と考えられる。

※その他のコンテンツとして、観光、コミュニティビジネスやデジタル機器の活用、デザイン思考やデータサイエンスなど各教育機関の特色を活かした教育コンテンツが挙げられた。

調査結果からも多くの教育コンテンツが挙げられ、継続した地域ニーズとのマッチングが求められる。